

活動マニュアル策定後、初の訓練

2月2日、上ノ国消防署（仲澤嘉彦署長）及び上ノ国消防団（長谷川俊郎団長）合同による「消防団火災防衛および火災図上訓練」が、町総合福祉センターで実施されました。

消防職員と町内全9分団の団員70名が参加したこの訓練では、図上で火災時の配置やホース連結の確認などが行われました。

上ノ国消防署では昨年10月、これまで通例で行われていた消火活動の内容を現代の機材や様式に照らし合わせ、「火災防衛活動基本要領」としてマニュアル化したもので、今回はこの要領に沿った初めての訓練となり、仲澤署長は、「要領を策定した目的は、新人団員もベテラン団員も、一定の基準で迅速に消火活動を行うことができるようにすること、特に新人にも役割がわかりやすいよう配慮している。組織の効率化を通して、住民の生命と財産を守ることに努めたい」と話していました。



外国人ツアー客 スキー体験日に降雪で大喜び

2月6日、中国人や韓国人、アメリカやガーナなど10カ国の留学生34人がスキー体験を行うため町民スキー場を訪れました。

これは、交流人口の拡大を図ろうと上ノ国町観光振興公社が旅行代理店と連携して北海道国際交流センターが主催するツアーを誘致したものです。

本町では、降雪が少ないことからスキー場もオーブンできない状況が続いていましたが、ツアー前日、奇跡的に30センチの積雪があり、上ノ国町スキー連盟を中心に、整備に尽力されたことでスキー体験の実施にこぎつけました。ほとんどもがスキー初体験となる留学生でしたが、同スキー連盟講師の指導の元、短期間で滑り方を習得したほか、昼食には地元食材を使ったバーベキューなどが楽しめる舞われ、午後からは湯ノ岱温泉に入浴し、上ノ国の冬を満喫していました。



賑やかな2月の風物詩

2月3日、上ノ国・河北両保育所では、節分の豆まきが行われました。各保育所の園児たちには、紙芝居を交えて節分の豆まきの由来などが説明され、その後、自分たちで作った鬼のお面をかぶり、お互いに豆まきをしました。

そこに、職員扮する鬼が「わるい子はいないか」と乱入すると、園児たちは泣きながら逃げたり、果敢に豆をぶつけて退治しようとするなど、必死の攻防が繰り広げられました。数分間続いた園児と鬼の追いかけてこの末、豆をぶつけられた鬼が降参すると最後は仲直りし、園児たちも『よわいものいじめをしない』『うそをつかない』『悪い子にならない』『などを約束して、2月の風物詩は、最後に園児たちの笑顔で幕を閉じました。



サクラマス釣りに、釣り客集まる

1月末、サクラマスを狙う釣り客が町内外から本町に集まり、大崎から大安にかけての海岸が人気のスポットとなっています。雪も風もなく、海が凪いで絶好の釣り日和となった2月の早朝、大安在浜では一定の間隔で釣り客がズラリと並び、サクラマス釣りに興じていました。

国道近くの路肩や駐車場に駐車してある車のナンバを見ると、地元はもちろんのこと遠方の表記も多く、札幌や旭川などから日本海のサクラマスを釣るために本町まで来られた方もいました。その中のお一人に話を聞くと、「今年は2月も暖冬だったことから海水温も高く、全体的に釣果が良かった気がする。これからも温かいなら、サクラマスにとってもいい環境で期待できる」と今後の更なる賑わいを予感させる話もありました。

